

令和4年10月吉日  
(2022年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田東小学校  
校長 三宅 友子

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について（案）

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域において、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の平均正答率は、全国・大阪府の数値とほぼ同値であった。「書くこと」については全国・大阪府を下回っており、今後の指導において、留意して取り組んでいく必要がある。

#### 言葉の特徴や使い方に関する事項

「文中の漢字を正しく書く」を問う設問においては、平均正答率は概ね全国・大阪府と同じであるが、無解答率が高かった設問もあり、漢字の意味や使い方に対する理解について課題が見受けられる。

#### 我が国の言語文化に関する事項

「漢字の仮名の大きさ、配列に注意して書く」を問う設問においては、平均正答率・無解答率は全国・大阪府に比べ下回っており、手紙や作文は読み手を意識して書く必要があることを理解させる必要がある。

#### 話すこと・聞くこと

「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」を問う設問においては、平均正答率は全国・大阪府を上回っており、無解答はなかった。

#### 書くこと

「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つける」を問う設問では、平均正答率は全国・大阪府を下回っており、無解答率も比較的高く、「書くこと」に対する課題が伺えた。

## 読むこと

- ・「登場人物の行動や気持などについて、叙述を基に捉える」を問う設問では、全国・大阪府を上回る平均正答率であった。
- ・「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」「表現の効果を考える」を問う設問では、平均正答率は全国・大阪府を下回っており、文章の内容理解や問題の意図理解について課題が見受けられる。

### ●国語科における成果と今後の改善点について

「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の平均正答率は、全国・大阪府の数値とほぼ同じであった。この結果は、朝の学習、読書などの取組や授業改善の成果だと考えられる。

一方で、「書くこと」については、全国・大阪府と同様に苦手意識が伺える。「書くこと」に慣れ親しみ、自信をもって考えや思いを書くことができるよう、学習の場を工夫して設定していく必要がある。また、言葉や文章の意味を正しく理解し、書き手として適切に扱うことができるよう、「読むこと」の指導も充実させていく必要がある。

### ●算数《概要》

「数と計算」「データの活用」の領域では、全国・大阪府を下回る平均正答率であったが、「図形」「変化と関係」の領域は、全国・大阪府を上回った。どの領域においても思考を表現する設問に対する平均正答率は低く、設問の文意を理解していない傾向も見受けられることから、思考を表現する力と問題を読み取る力を培っていく必要がある。計算問題は全国・大阪府を上回ることができた。

## 数と計算

- ・「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」を問う設問においては、平均正答率は全国・大阪府を上回った。
- ・「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる」を問う設問においては、平均正答率は全国・大阪府を下回っており、問題の意図を理解し、より良い解決方法を考える力に課題が見受けられる。

## 図形

「図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質、構成の仕方について理解している」を問う設問では、平均正答率が全国・大阪府を上回る結果であった。

## 変化と関係

- ・「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める」や、割合に関する設問については、平均正答率が全国・大阪府を上回るものもあった。
- ・「20%のりんごジュースの数量が変わっても、割合が変わらないことを理解している」を問う設問では、全国・大阪府と同様に平均正答率が低く、割合の意味理解について課題が浮き彫りとなった。

## データの活用

「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉える」を問う設問や、グラフを読みとる設問に関する平均正答率は全国・大阪府を下回った。

## ●算数科における成果と今後の改善点について

「数と計算」「データの活用」の領域における平均正答率は全国・大阪府をやや下回ったが、「図形」「変化と関係」の領域については、全国・大阪府をやや上回る結果であった。本校はこれまで、算数科「図形」領域での研究に取り組んでおり、その成果が表れたものと考えている。今後は、「変化と関係」に関する理解を深め、無解答率の改善に向けて、算数の有用性を感じられるよう実生活に基づいた学習機会や、文章や図等を用いて、自分の考えを説明したりする場面を設定していく必要がある。また、問題の意図を読み取ることができるよう読解力の向上にも努めていく必要がある。

## ●理科《概要》

「地球」を柱とする領域については、全国・大阪府を下回る結果となったが、他の領域については、全国・大阪府とほぼ同等の平均正答率であった。「器具の名称を理解している」を問う設問では、全国・大阪府を大きく上回る平均正答率であった。一方で、「実験結果から、改善に向けて自分の考えをもつ」を問う設問など、自分の考えをもったり、表現したりすることが求められる問題に対しては、平均正答率が低く、課題が見受けられた。

### エネルギー

- ・「日光は直進することを理解している」を問う設問では、平均正答率が全国・大阪府を上回った。
- ・「問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している」を問う設問では、平均正答率が全国・大阪府を下回った。

### 粒子

- ・「器具を理解している」を問う設問では、平均正答率が全国・大阪府を大きく上回った。
- ・「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している」を問う設問や、実験や得られた情報から自分の考えを表現する設問の平均正答率は、全国・大阪府を下回った。

### 生命

- ・各設問の平均正答率は概ね全国・大阪府と同じであった。
- ・「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する」を問う設問では、全国・大阪府に比べて無解答率が高かった。

### 地球

- ・「実験で得た結果を問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」ことなどを問う設問は、全体的に無解答率が高かった。

## ●理科における成果と今後の改善点について

「地球」を柱とする領域以外の他領域については全国・大阪府とほぼ同じ平均正答率であった。全体的な傾向として、問題を複数の観点から考え、その考えを表現することに課題が伺えた。今後は、1つの問題事象に対して、主体的に解決しようとする姿勢や、解法を見つけるために、ものごとを多面的に見る力を養う必要がある。また、無解答率の高さから、わからない設問に直

面した時に、諦めてしまう傾向も伺えることから、粘り強く問題文と向き合い、グラフ・図から解法のヒントを見出す力を培っていく必要がある。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

・「ふだん一日あたりどの程度スマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか」の設問に対して、4時間以上と答えた児童の割合が全国・大阪府よりも高かった。

→SNS やインターネットゲームを介してのトラブルが起こり得る要因の一つとして考えられる。そのため、家庭との連携を図りながら、デジタルシティズンシップ教育等の取組を進めていきたい。

・「自分には、よいところがあると思っている」「先生はあなたのよいところを認めていると思いますか」の設問に対して、児童の肯定的回答の割合は、全国・大阪府よりもやや上回った。

→普段から学校での認め合う人間関係づくりがそれぞれの結果につながっていると考えられる。

・「学校に行くのは楽しいと思うか」の設問では、全国を上回る結果であった。

→友達との学びあいや共に過ごすことを通して、達成感・充実感を味わえる取り組みを継続していく。

・「土曜日や日曜日など学校の休みの日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問に対して、4時間以上と回答した割合は、全国・大阪府を下回り、1時間以内か2時間以内が多かった。

→自主的に学習に取り組めるように引き続き働きかけを行っていきたい。

・「住んでいる地域の活動に参加する」という質問に対して、全国・大阪府よりも肯定的回答が多かった。

→児童の地域とのつながりと、児童が地域から支えられていることが伺える。

## 3 今後の取り組み

本校では学力向上を教育活動の重点課題と位置づけ、学習指導要領が示す主体的・対話的で深い学びの具現化に向けて、授業改善に取り組んでいるところです。今年度は、算数科の「図形」領域に焦点を当てた教科研究を行い、児童ひとり一人が学習課題の解決に向けて、主体的に取り組む、「できた」「そういうことか」といった学びの喜びを味わえるよう、学習の見通しを立てたり、自分の考えをペアや班で交流する機会を設定したりするなど、指導方法の工夫改善に努めています。

この度の全国学力・学習状況調査における各教科の全体結果から、本校の平均正答率は大阪府と同値あるいはやや下回る結果であることがわかりました。とくに「自分の考えをもち、表現する」ことについては、全国・大阪府と同様に、今後の課題であることが浮き彫りになりました。

児童が、より意欲的・主体的に学ぶことができるよう児童の対話を大切に授業づくりを継続するとともに、授業で考えたことやわかったことを自分の言葉でまとめる活動を充実させていきます。また、基礎学力の定着を図る取組として「チャレンジタイム」、「東っコスタディ」などの教育活動を進めてまいります。

生活環境や学習習慣等の結果を踏まえては、児童がコンピューターや SNS の善き使い手となるようデジタルシティズンシップ教育、子供の自己肯定感、自尊感情を高める人権教育、いじめ予防授業、道徳教育の充実などの各種取組について、引き続き注力してまいります。

保護者の皆様におかれましては、子供の自立と幅広い学習の機会をつくるため、引き続いてのご協力をお願いいたします。